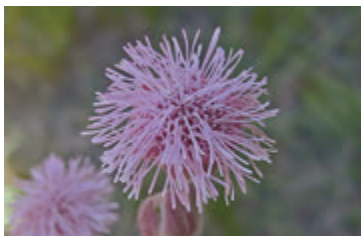




▲ポンポンアザミ。花期（'11.7.21, 田原市）



▲ポンポンアザミ。花（'11.7.21, 田原市）



▲ポンポンアザミ。花（'11.7.21, 田原市）

ポンポンアザミ [キク科]

Campuloclinium macrocephalum (Less.) DC.

(E) Pom-pomweed ; Pom-pom bossie
南米（アルゼンチン・ブラジル）原産で、南アフリカに園芸植物として導入され、現在、侵略的雑草となっている多年生草本。根は肥厚し地下深くまで伸びる。そこから直立する茎を出し、通常分岐せずに伸長し、高さ50～120cm（最大150cmの報告がある）になる。原産地では、葉形は変異に富むようであるが、愛知県に見られる個体の葉は卵形または楕円形で、長さ8cm、葉幅2cmほどで鈍頭、茎上部に着く葉は細長く、鈍頭のひ針形となる。茎や葉は白毛で覆われている。花期は8～11月、茎は上部で分枝し淡紫色の頭花を数個咲か

せる。頭花は筒状花だけで、完全に開くと直径25mmほどになる。総苞片は8mmほどのひ針形で、花柄とともに赤紫色を帯びる。瘦果には淡褐色の冠毛がある。わが国では、本種はアフリカ原産の *Vernonia glabra* (Steetz) Vatke と誤同定され、「桃色花火」「桃色香りあざみ」などの園芸名でポット苗や鉢物が流通している。2008年に愛知県田原市（旧、渥美町）で最初に本種の逸出が確認され、2011年には大きな群落を形成していた。愛知県では条例により、「生態系に悪影響を及ぼす移入種」として、本種を野外に植栽する、もしくは種子を播く行為が禁止された。（植村修二）

[分布情報] 愛知、大阪、長崎、愛知